

東海市教委との話し合い 2022年10月13日(木) 16:00～ 於東海市役所

長＝加藤 千博教育長 委＝東海市教育委員会 明壁啓純主任指導主事

組＝知教芳 岩澤 弘之 副委員長(鬼崎中) 市野 司副委員長(西部中) 小林 庸介(渡内小)

組 作品応募の負担軽減や勤務時間管理のミライムによる見える化、林間の簡素化、小学校部活の廃止等、学校に理解をもった対応を感謝している。

・部活動について

組 中学校部活動の地域移行は怎么样了なっているか？

委 検討を始めたところ。アンケートを行っている。

長 地域移行の際、土日にどれくらいの子どもが参加するのか、教員もどのくらいやりたい人がいるのか掴みたい。

組 「中学校部活動の地域移行」はもともと給特法改正の国会の付帯決議で「教員の過重労働を減らすため」として出てきた内容。それが他の市町教委と話をすると「子どもに文化スポーツ活動の機会を」という「受け皿」論が先に立つ。本来は「土日の教員の部活負担を無くす」がベースなのだから「文化スポーツの機会」は別建てで考えてほしい。教員も、勤務校の同じ部活でやらせると、業務なのか何なのかわからなくなる。部活をやりたい教員は、居住地の地域部活を見ればよい。勤務校での兼職兼業は禁止すべき。

長 子どもの側に立つと、文化スポーツの機会を保障するのも教育委員会として考えていかなければならない。

組 文科省も全国大会廃止と言いつ始めている。中学校で部活をやりすぎてバーンアウトという例もあり、「生涯スポーツ」とはかけ離れている。地方大会で終われば勝利至上主義もなくなっていく。

・ICTの適切かつ円滑な運用について

組 現場では「iPadがいい」という意見が多かったが、どういふプロセスをたどってWindowsになったのか知りたい。児童生徒が使う端末を「タブレット」と呼んでいるが、「ノートパソコン」が正しい呼称。誤った認識をさせたくない。

委 決定には議論があったが、メンテナンスやデジタル教科書を入れられるかを考えたらWindowsになった。端末の呼称は、校務用も「ノートパソコン」なので混同してしまう。子どもにも、先生方にもわかりやすい言葉で説明したい。

組 ID やパスワードが連番になっており推測しやすい。なりすましされやすい。ICTリテラシーの点からも問題。

委 初期設定は連番になっているが、変更はできると伝えてある。パスワードを忘れたときやメンテナンスの際は連番のほうが管理はしやすいのだろう。

組 運用の面で手間はあつのだろうが、パスワードの正しい構築のしかたを教え、情報漏洩の危機を防ぐほうが、適切さの面では大事だ。

組 職員が端末にIDやパスワードを貼り付けるのは子どもが「それでいいんだ」と勘違いする。Teamsは数字ではなく名前の表示にすべき。学校で提案したが「このままで」と言われた。ICTの運用方法をどこまで理解しているか疑問だ。

委 それぞれのやり方には、一長一短がある。学校がそれぞれの目的や合理性を踏まえた判断をして行っているかと捉えている。

長 端末を導入し1年余り、より正しく最適な方法を考えていってほしい。

組 導入の時に適切な状態ならそれが続くが、誤つた方向で始めるとそれが当たり前になってしまう。

委 Teamsの名前については支援員に聞くと、全員変えるのは相当時間がかかるそう。現場にいるときはアイコンに名前を入れるように指示した。

組 一括管理の方法があるはず。

長 導入後、日が浅いので問題もあるが見直しもしている。

委 要望はその都度出してもらえば回答させてもらう。

・改正「給特法」に伴う勤務時間の上限、労働条件について

組 東海市は全員、休憩が「取れたもの」として在校時間が記録されている。

委 校長会で、休憩が取れない場合はそのように記録するよう伝えている。管理職の休憩に対する意識も高いと思う。

組 会議が休憩時間まで延びても割振りの話は出ないが。

組 教育委員会は管理職に「ちゃんとやれ」と伝え、管理職が職員に「ちゃんとやれ」と伝えるまではできているのだろうが、実際にやれていない。担任が子どもに「ちゃんとやれ」と言つても全然できないのと同じこと。管理職に労働管理の研修をすべきだと思う。もし東海市で過労死が発生して「休憩は取れていた」と記録されているのに、「実態は違つていた」となると管理職・教委の管理責任が問われる。

組 休憩時間に対する意識が薄い職員も多い。休憩時間に業務を入れられたり会議が延びたりするのが日常茶飯事。

組 上限規制月 45 時間、年 360 時間を守るためには業務を劇的に改善する必要がある。「若あゆ日記」の編集等の他団体の業務はやめるべき。授業に補欠を出して他団体の業務をしに行くというのは、市民目線でも「なぜそんなことをしている？授業をやってくれ。」となる。

委 学校の教育活動に有益なものを作成して教材として活用していると捉えている。

組 日記は教材にはならない。教材だとしても、市教委が作っているならわかるが、他団体がやっている。販売してそれを子どもが購入している。こんなことがいつまで続くのか？

委 他団体が行っている事業に、教育委員会が意見することはできないと考えている。

組 県費旅費を使って他団体の業務に出張させている。「無駄になった税金を返還せよ」という訴訟を起こしたら動くか？自浄作用で「これは切った方がいい」という動きを作る時ではないか？

組 東海市では欠員も多い。現場に教える人がいないのに、冊子の編集に人が取られるのは、現場としては腹立たしい。

組 日直制度の廃止、就学時検診の学校からの切り離し、「校務」主任の仕事の外部委託、改善点はたくさんある。

組 東海市は再任用ハーフ 2 人で 1 学級担任はないか？
委 ない。

組 愛労連が行っている「自治体キャラバン」で東海市は教員未配置が、4 月 1 日で 10 人いることが明らかになった。

委 4 月 1 日以降に任用した。2 学期当初では、常勤未配置が 4 人。そのうち 3 校は非常勤を充てた。現在も未配置のままが 1 人。

組 教員が足りない状況を市民に広く公開してはどうか？常滑市では広報に載せた。あらゆる手立てをとれば現場は助かる。

・学校訪問について

組 準備に負担がかかる。何か改善や工夫は行ったか？

委 市教委へ提出する要項を紙媒体からデジタル媒体にした。

組 学校訪問のために特別時間割を組むのはおかしい。通常のスケジュールで学校訪問を行えば、子どもにも教員にも負担がかからない。

委 コロナが 2 年続き、研究協議を短縮する等、様々な工夫があった。今年度子どもを午後から帰さない学校もあった。方法については負担がないよう各校で工夫してほしいと伝えた。

組 これまで何十年と「授業研究のための学校訪問」に偏っていた。知教協の学校訪問要項を読むと、9 つあるポイントのうち授業は最初の 2 つだけ。今年度は「働き方改革」も加わった。要項に基づいた学校訪問をやれば負担は減る。

長 授業を見るいい機会なので、そこは大事にしたい。

組 「学校巡回」は東海市は行っているか？

長 行っていない。学校訪問以外で授業を見る機会はなかなかない。

組 「学校訪問」という特別な日でなく、普段の授業を見に来て、それを学校訪問に置き換えれば良い。

長 昔に比べれば「特別感」はなくなってきている。普段の授業を見せていただければ十分だと思う。以前は子どもを早く帰して慌しい状況もあったが、協議会の時間を短くして余裕をもってできるようになった。改善や工夫の余地はまだあると思う。

・その他

組 愛知県では他県に比べ男女混合名簿の実施率が極めて低い。組合も働きかけて、実施されたところもあるが、東海市はどうなっているか？

委 小学校は 1 2 校すべて混合名簿。中学校はゼロ。教科の都合などあるのだと思う。

組 「中学校は混合名簿にできない」というのは普遍的なことではなく、他県では中学校でも十数年前から当たり前に行われている。中学校の社会科や家庭科でもジェンダーについて教えている。すぐにでもお金をかけずにできることだ。

長 先生方の学校では？

組 鬼崎中も西部中も男女混合になった。常滑は市教委が市内一斉に行った。最初は慣れないが、健診でも男女分けなければならぬ場面はほとんどなかったと気づいた。スカートををはきたくないという女子が声を上げ始めた。

以上